

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：32690

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370617

研究課題名(和文) 苦手意識の克服を目指した大学での「書く力」を育成するシラバスの開発

研究課題名(英文) Development of syllabus to foster the writing skills of university students while overcoming the weak sense of writing

研究代表者

山下 由美子 (YAMASHITA, YUMIKO)

創価大学・学士課程教育機構・講師

研究者番号：90635294

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、大学生に必要な日本語・文章作成力とはどのようなものを明らかにし、書くことに苦手意識を持つ学生も取り組める標準的なシラバスの作成と教育手法の開発を行った。学生の苦手意識を軽減・克服させながら書く力を育成するには、ペアワークやグループワークなどアクティブラーニングを用い、様々な教育手法を効果的に取り入れながら、書くことを孤独な作業にさせない工夫が有効的な一つの方法であることがわかった。

研究成果の概要(英文)：In this study, we clarified what kind of Japanese and writing skills are necessary for university students, and developed a standard syllabus and educational method for students who are not good at writing. To foster the ability to write while reducing and overcoming the weak consciousness of students, using active learning such as pair work and group work, while effectively incorporating a variety of educational methods. It became clear that the device which did not make writing a solitary work was an effective one method.

研究分野：日本語学

キーワード：文章表現 レポート 苦手意識 アクティブラーニング マインドマップ LTD

1. 研究開始当初の背景

大学のユニバーサル化に伴い、多様な学生を受け入れるようになり、日本人学生用の日本語教育、日本語力・文章作成力を育成するための授業の必要性が増している。本学においても、「共通科目で課されるレポート課題に取り組む際の基礎技能の育成」を到達目標とした科目を設置しており、2014年度からは新入生に対し全学必修化された。また、書くことに不安を感じている学生が多いことも、山崎・関田(2012)の調査で明らかとなっている。日本語力・文章作成力育成のためのカリキュラムが整っていないことや、学生の書くことに対する苦手意識の原因や克服方法についても、様々な課題が残っている。

2. 研究の目的

本研究では、書くことに苦手意識を持つようになる原因やその克服方法について明らかにしていく。また、大学生に必要な日本語力・文章作成力とはどのようなものかを明らかにし、書くことに苦手意識を持つ学生も取り組める標準的なシラバスの作成と教育手法の開発を目指すことを目的とする。具体的には以下の二点について明らかにしていく。

一つ目は、大学生に必要な日本語力・文章作成力を明確にするとともに、その教育手法を開発するための基礎的な研究を行うことである。特に、文章を書くことに対して苦手意識を持っている学生に着目し、苦手意識の原因やその克服方法について明らかにしていく。

二つ目は、導入している教育手法に具体的な教育効果があるかを調査し、より効果的な取り入れ方を検討していくことである。本学の文章表現科目の授業では、4つの教育手法(マインドマップ、看图作文、LTD(Learning Through Discussion:話し合い学習法)、パラグラフィティング)を導入し、書くことの苦手意識の軽減を図りながら、授業を行っている。授業評価では学生の満足度は比較的高いものの、それが文章作成力向上につながっているかは教育効果を調べる必要がある。また、本学では学習支援サービスとして2010年度より「レポート診断」を行っている。レポートやアンケートのデータから、今後学生が抱える問題点等を探っていきたい。

3. 研究の方法

(1) 全国の大学のシラバス調査および事例調査

全国の大学の日本人学生向け文章表現系授業のシラバスを収集し、それを分析した。大学生に必要な日本語力・文章作成力とはどのようなものであるかを明らかにするために、各大学が授業を通して目指すもの、学生にどのような力を身に付けさせようとしているかを調べた。また、特徴的な教授法や教育手法を取り入れている大学の授業見学やインタビュー調査にも行った。

(2) 教育手法の効果検証

本学の日本語力・文章作成力育成のための授業で導入している、マインドマップ、LTD、パラグラフィティング等の教育手法が、学生の苦手意識軽減・克服だけでなく、教育効果があることが経験的には分かっていた。しかしながら、客観的に教育効果があることを示すことができていなかった。そこで、教育手法に関するアンケート調査を実施し、書くことの苦手意識克服や文章作成力向上につながっているかを事前と事後のアンケート調査から検証した。

(3) 読むことと書くこととの関係

読むことについては、1ヶ月あたりの読書量、読書のジャンル、読み方、読書に対する心理的態度等について、また、書くことについては、書くことに対する心理的態度等についてアンケート調査を行った。学期終了時には、授業で提出されたレポートを、ループブックに基づいて評価し、アンケート結果とレポートの結果を分析し、読むことと書くこととの関係を明らかにした。

(4) 大学生の日本語力・文章作成力育成のための標準的なシラバスの作成

これまでの研究や調査を踏まえ、学生が書くことに苦手意識を持つ原因に基づき、マインドマップ、LTD、パラグラフィティングをはじめとする教育手法や苦手意識を軽減・克服させる効果的な教授法を取り入れながら、大学生として必要な日本語力・文章作成力を育成するための標準的なシラバスの作成を目指した。

また、シラバスを遂行するために必要な教材や、課外学習のためのe-learning教材の開発も行った。

4. 研究成果

本研究の目的は、大学生が書くことに苦手意識を持つようになる原因やその克服方法を明らかにし、書くことに苦手意識を持つ学生も取り組める標準的なシラバスの作成と教育手法の開発を目指すものであった。この目的を達成するため、文章表現系科目において、パラグラフィティング、マインドマップ、LTDを始めとする教育手法や指導法を取り入れ、書くことへの苦手意識を軽減・克服させながら書く力を育成するシラバス開発に向け、試行を行った。

パラグラフィティングでは、新聞記事を用いた練習を取り入れた。このような練習を通し、パラグラフィティングの書き方を理解させ、形式に当てはめていく「型」を指定し、敢えて自由度を制限することにより、書き方がわからないまま書き進めてしまうことを防ぐことができた。

また、レポートのテーマ設定のため、マインドマップを用いてアイディア出しをさせ

た。マインドマップ導入前は、テーマ設定までに時間がかかったり、一度決めたテーマで行き詰った際にうまく切り替えができなかったりして、遅れを取る学生も散見された。しかし、導入後は、途中でつまずく学生が導入前に比べ減少した。これまで各学期末に実施してきたマインドマップに関するアンケートから、「アイデアがたくさん出せるようになった」「レポート作成に役立った」「今後様々な文章を書くときに役立つ」がいずれも80%以上の好評価が得られている。

授業にマインドマップを導入するためには、マインドマップ自体の説明に時間を割く必要があるが、その時間は限られており、これまで詳しく説明できていなかった。マインドマップを体験した学生からは、描き方に慣れるのが難しいという意見や、他の分野や授業にも応用させられるよう、もう少し詳しく教えてほしい旨の要望も出ていた。そこで、レポート作成のためのマインドマップの活用に着目した、授業の予習や復習、そして反転学習に活用できる、表1のeラーニング教材の開発を行った。

表1 eラーニング教材一覧

教材名	内容
マインドマップ入門編	マインドマップの概要説明
マインドマップの描き方実演	動画でのマインドマップの描き方説明
テーマ設定の仕方	アイデアや思考を俯瞰でき、そこからテーマを絞り込む流れ
要約の仕方	文章で要約する前に情報整理をしやすい方法
パラグラフライティング	本論部分の書き方についての説明
アウトラインの立て方	章節立てを明確にし、レポートの一貫性を意識させる流れ
根拠の比較	比較文や意見文執筆に必要な根拠の比較の仕方を説明
読書記録	読書レポートや書評のための読書内容や意見のまとめ方

これらの教材は、パワーポイントで作成したスライドを、動画と解説の音声に変換して作成している(図2参照)。動画閲覧時、画面右側のINDEXから項目を選択すれば、見たいところから再生できる。

加えて、各教材の理解度を確認するために用意した4択式の確認テストを、図3に示す。各教材7問~10問の問題を用意しており、学生は回答後すぐに正答の確認ができる。教員は、ログから学生の閲覧状況や確認テストの解答時間や点数が確認できるなど、学習状況

も把握できる。本教材は、本学以外に3つの大学でも使用されている。

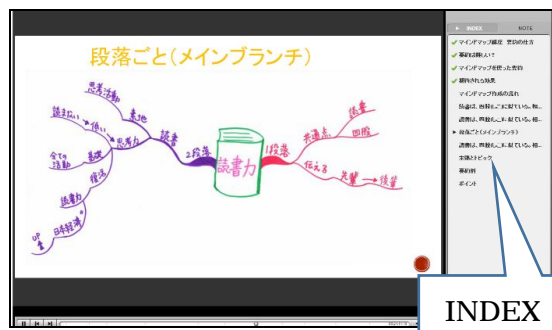


図2 eラーニング教材例

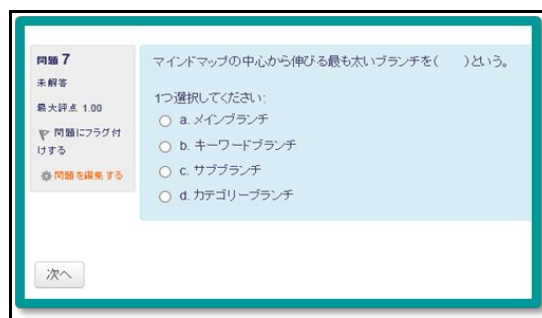


図3 確認テスト例

また、LTDを取り入れることで、課題教材の読解、関連知識や情報を個の学びに終わらせず、グループ単位での協同学習につなげることができた。これらの教育手法や指導法等の協同学習を取り入れることで、レポート作成を孤独な作業に終わらせず、協同で作成していく体系を作ることができた。

Web上に公表された全国の大学のシラバスを調査したところ、レポートの書き方に特化した科目が最も多く、小論文の書き方、日本語検定取得など外部検定取得を目指す科目などが見られた。さらに、メールの書き方、手紙文の書き方、創作文、エントリーシートの書き方など多様な文章表現に加え、ピブリオバトル、プレゼン、インタビューなど、話すことも含めた表現力育成を取り入れた授業も見られた。

文章表現科目のシラバス調査や学生へのアンケート調査等から、大学レベルで行うべき文章表現は、書きことばの使用、パラグラフライティングを意識した書き方、引用形式の遵守など、レポートを中心とした基本的ルールに基づいたものであると言える。そのうえで、学生の苦手意識を軽減・克服させながら書く力を育成するには、ペアワークやグループワークなどアクティブラーニングを用い、様々な教育手法を効果的に取り入れながら、書くことを孤独な作業にさせない工夫が有効的な一つの方法であることがわかった。

<引用文献>

山崎 めぐみ、関田 一彦、「書くこと」に対する学生の心理的態度について(2011年度

「文章表現法 a」における調査の報告」 学士課程教育機構研究誌、第 1 号、2012、143-152

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

山下由美子 (2014) 『『しよう』の意味・用法 — 非難・願望表出の『しようよ』』 『日本語/日本語教育研究[5]』、査読有

関田一彦・山崎めぐみ・山下由美子 (2015) 「創価大学のレポート指導科目の必修化に向けた取り組み」 『The journal of learner-centered higher education = 学士課程教育機構研究誌 (4)』 pp. 23-36、査読無

関田一彦 (2015) 「2014 年度全学 FD フォーラム報告: 『學術文章作法』 開講に向けた取り組み(特集論文 エビデンスに基づく教育改善)」 『The Journal of Learner-Centered Higher Education = 学士課程教育機構研究誌 (4)』 pp. 19-21、査読無

関田一彦 (2017) 「アクティブラーニングとしての協同学習の研究」 『教育心理学年報 (56)』 pp. 158-164、査読有

山下由美子 (2018) 「学生のレポートにおける話し言葉とその出現傾向」 『日本語日本文学 28 巻』 pp. 57-71、査読無

〔学会発表〕(計 14 件)

山下由美子 「看護学部における『看図作文』の目的と実践」 日本リメディアル教育学会第 10 回全国大会、2014 年 8 月 21 日 (東京電機大学)

齊藤幸一・山下由美子 「LTD を用いた書評レポートの作成」 日本協同教育学会第 11 回大会、2014 年 10 月 25 日 (創価大学)

山下由美子 「看護学部における『看図作文』の目的と実践 LTD を用いた書評レポートの作成 LTD を通し看護学部生は何を学んだか — 『高瀬舟』を題材として—」 日本協同教育学会第 11 回大会、2014 年 10 月 25 日 (創価大学)

山下由美子 「マインドマップを活用したレポート作成のための自習教材の開発」 大学 eラーニング協議会「総会・フォーラム 2014、2015 年 3 月 13 日 (大手前大学 さくら夙川キャンパス)

山下由美子・望月雅光 「書くことの苦手意識克服を目指したマインドマップの活用」 日本リメディアル教育学会第 11 回全国大会、2015 年 8 月 30 日 (北星学園大学)

山下由美子・望月雅光 「レポート作成のためのマインドマップ eラーニング教材活用事例」 大学 eラーニング協議会、2016 年 3 月 17 日 (信州大学長野キャンパス)

山下由美子・松尾美香・望月雅光 「文章表現科目におけるマインドマップ活用の効果」 日本リメディアル教育学会第 12 回全国大会、2016 年 8 月 25 日 (大阪国際大学)

山下由美子・日永龍彦 「表現力向上のためのマインドマップ活用事例」 日本協同教育学会第 13 回大会、2016 年 11 月 5 日 (三重大学)

山下由美子 「文章作法科目におけるマインドマップ活用事例」 千歳科学技術大学公開 FD 研修会(招待講演) 2017 年 2 月 18 日 (千歳科学技術大学)

山下由美子・日永龍彦 「文章表現力向上におけるマインドマップの効果 - 学生の振り返りの分析を踏まえて - 」 日本協同教育学会第 14 回大会、2017 年 10 月 28 日 (岡山大学)

山下由美子・城之内庸仁 「協同的グループ活動でのマインドマップの使い方 - アイデア出しや問題解決ツールとして - 」 日本協同教育学会第 14 回大会、2017 年 10 月 28 日 (岡山大学)

山下由美子・小松川浩・山川広人・加藤竜哉・湯川治敏・仲道雅輝・秋山英治 「日本語文章作成支援ツールとしての話しことばチェックシート開発に向けて」 大学 eラーニング協議会・日本リメディアル教育学会合同フォーラム 2017、2018 年 3 月 1 日 (岩手県立大学)

秋山英治・山下由美子・湯川治敏・小松川浩・加藤竜哉・仲道雅輝・山川広人 「日本人大学生における話し言葉の認識について」 大学 eラーニング協議会・日本リメディアル教育学会合同フォーラム 2017、2018 年 3 月 1 日 (岩手県立大学)

加藤竜哉・中嶋輝明・望月雅光・山下由美子・湯川治敏・尼崎光洋・仲道雅輝・日永龍彦・山川広人 「学生への『学びのチェックシート』導入とその活用」 大学 eラーニング協議会・日本リメディアル教育学会合同フォーラム 2017、2018 年 3 月 1 日 (岩手県立大学)

〔図書〕(計 4 件)

関田一彦・山崎めぐみ・上田誠司 (2016) 『授業に生かすマインドマップ - アクティブラーニングを深めるパワフルツール - 』 ナカニシヤ出版

関田一彦・渡辺貴裕・仲道雅輝 (2016) 『教育評価との付き合い方 - これからの教師のために』 さくら社

山下由美子・中崎温子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩 (2017) 『大学生のための日本語問題集』 ナカニシヤ出版

仲道雅輝・山下由美子・湯川治敏・小松川浩 (2018) 『大学初年次における日本語教育の実践』 ナカニシヤ出版

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

山下 由美子 (YAMASHITA, Yumiko)
創価大学・学士課程教育機構・講師
研究者番号：90635294

(2)研究分担者

関田 一彦 (SEKITA, Kazuhiko)
創価大学・教職大学院・教授
研究者番号：70247279

(3)研究分担者

望月 雅光 (MOCHIZUKI, Masamitsu)
創価大学・経営学部・教授
研究者番号：70284601

(4)研究分担者

清水 強志 (SHIMIZU, Tsuyoshi)
創価大学・学士課程教育機構・准教授
研究者番号：20409775

(5)研究分担者

宮原 千咲 (MIYAHARA, Chisaki)
創価大学・学士課程教育機構・助教
研究者番号：00779267